



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 370

Mai 2022

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

2022年度通常総会報告

神戸日独協会会長 柘田 義一

2022年度通常総会が5月14日(土)に神戸日独協会会議室にて3年ぶりに対面形式で開催されました。各議題の報告・審議が行われ、すべての議題が了承されました。

2021年度の事業報告及び決算報告ではコロナ禍による主催行事の大幅な非開催、会員の減少、講座受講者の激減などによる財政的危機が説明されました。2022年度事業計画ではコロナ禍前の活動への復活を目指した活動計画が提案され、2022年度予算案では収入増を目指す、異例なことですが、上半期はマイナス予算案を提案せざるを得ないことが説明され承認されました。この協会の直面している危機打開のために出席会員による意見交換をして総会を終了しました。

理事横川 太氏転任による退任、理事松田耕治氏(3月31日付け)及び理事平塚裕章氏(5月20日付け)の理事退任がありましたので、横川氏の後任者である小川拓哉氏(兵庫県産業労働部次長兼国際局長)、尾辺和也氏(元神戸日独協会副会長)、多木和重氏(前兵庫県国際交流協会副理事長)の理事就任が承認されました。

本来であればコロナ禍での協会からの情報発信の場であるべき協会ホームページがこの2年間ほぼ機能不全に陥っていました。再開の努力をしてきましたが、多大なご不便をおかけし、深くお詫びを申し上げます。5月13日にやっと更新のできる状態になりました。順次ページを協会事務局にて更新をしていきます。SNSなども順次設けていく予定です。

昨年度は理事を中心とした各作業グループを新設して、活動をしてきました。会報を通じて会員の皆様に作業グループへの参加をお願いしてきました。コロナ禍の自粛風潮もあり、会員の参加が得られませんでした。その結果協会と会員との間に乖離を生じてしまいました。お詫びを申し上げます。この反省を踏まえて、月例で会員懇親のための「定例会」を開催するとともに協会活動の企

画・準備・実施を担うために理事と会員による委員会(従前の実行委員会)を復活し、会員からの声を取り上げ、協会運営に反映させます。是非とも積極的にご参加いただき、協会の危機打開のためにお力添えをお願い申し上げます。総会の意見交換の際に出席会員から「今一度会員一人一人が協会を作っている、支えていることを考えてみませんか。もっと活性化していくことも衰弱していくことも私たち会員一人一人の熱い思いにかかっています」との発言をいただきました。是非ともご協力をお願い申し上げます。

2022年度通常総会に参加して

会員 清水 裕子

2022年5月14日(土)に3年ぶりとなる対面形式での総会が開催されました。

会の冒頭、会長から「この2年間に元会長の黒崎 勇先生、元理事の小森幹男さんなど協会にとっても尽力下さった会員の方々がお亡くなりになられてしまい、本来であれば協会で『お別れの会』をして会員で偲ぶのでありますが、コロナ禍のためにそれも出来ませんでしたので、皆さんで黙禱を。」との挨拶があり、まず参加者全員の黙禱から総会が始まりました。

2021年度の事業報告や決算報告、2022年度の事業計画や収支予算案、新任理事の承認と議事は順調に進み、第6議案の特別促進事案についての協議になりました。

まず会員から「事務所移転」が最優先事項になっている違和感や神戸国際会館で事務所を構える意義について意見が述べられ、コロナ禍で希薄になってしまった会員同士の関係改善をまず最優先課題にすべきとの提案が出されました。これには参加者からも大きな拍手が起こりました。その後議長からも、戦後 ドイツ関係の新聞や書籍を置いた図書室として神戸国際会館に協会が入居した経緯などの説明があり、参加者からも80年以上続いた協会の運営や広報の具体的な改善案など、活発な意見が交わされました。会員の一人一人が神戸日独協会を作っているのだという事を総会で改めて実感しました。

コロナで活動が思うように出来なかった2年間はとても残念ですが、オンラインの講座など新たな切り口を見つけて、常に前に進む努力をされています。今後80年と言わず、100年以上を目指して尚一層、会員同士の協力が必要と感じました。

会員懇談会開催のお知らせ

総会報告や総会資料にてご理解いただけますように、我々の協会は現在様々な問題に直面しています。総会にて出席会員の方からご意見をいただきました。ご出席いただけなかった会員のみならず更に広くご意見をいただきたく、下記のように懇談会を開催しますので、是非ともご出席いただきたくお願い申し上げます。

日 時： 2022年6月5日(日)14:00~16:00

場 所： 神戸日独協会会議室

話 題： 協会運営、今後の活動、協会と会員間及び会員相互間の交流など

初夏の会員親睦遠足のお知らせ

奈良国立博物館特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」の見学

4月から奈良国立博物館にて特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」が開催されています。すでにご存じのように、大安寺ご住職は奈良日独協会会長の河野良文ご老師です。これまでに各種の催しなどで大安寺さんを訪問された方も多かろうと思います。

「わが国最初の天皇発願の寺を原点とし、平城京に壮大な寺地と伽藍を構えた大安寺。奈良時代、東大寺や興福寺などとともに南都七大寺の一つに数えられ、一時期を除き筆頭寺院としての格を有していました。1250年の時を経て今も大安寺に伝わる9体の仏像は、奈良時代を代表する木彫群の一つです。(中略)本展では、まさに時代をリードする大寺院であった大安寺の歴史を、寺宝、関連作品、発掘調査成果など様々な角度からご紹介します」(同博物館同展紹介HPより)。かねてより弊協会との交流をいただいている類を見ない歴史を持つ名刹である大安寺さんを通して奈良時代からの古代文化をよりよく理解させていただく絶好の機会ですので、奈良へ遠足をすることになりました。

河野良文ご住職に同展見学の際のご案内と奈良日独協会の方々との交流をお願いしましたところ、ご快諾をいただきました。コロナ感染が未だ収まっていますが、できる範囲内にて両協会の交流をも深めたいと思います。

コロナ禍のためにこの2年間親睦遠足を自粛してきましたが、感染予防に十分にご配慮の上、ご参加をお待ちしています。

遠足内容： 奈良国立博物館特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」の見学

日 時： 2022年5月29日(日)13:00～15:00

集合場所： 奈良国立博物館観覧料売り場前

奈良国立博物館 奈良市登大路町50(近鉄奈良駅から徒歩12分)

参加費： 交通費・観覧料(1800円)は各自払い

奈良までは各自で交通手段をお選びください。

定 員： 先着順20名まで

感染予防のための制限をご容赦ください。

申 込： 5月27日(金)までに電話・メールにて協会事務室へお申込み下さい。

なお、同日には奈良市内で「ムジークフェストなら」が開催され、コンベンションセンター(奈良市庁舎前)では「プロースト！ムジーク」というドイツの音楽と食を楽しむ催しが開かれているそうです。

同展見学の前後に希望者各自にてご参加ください。

特別展については奈良国立博物館ホームページ

(https://www.narahaku.go.jp/exhibition/special/202204_daiANJI/)、「ムジークフェストなら」については公式サイト(<https://www.naraken.com/musik/2022/>)をご覧ください。

神戸日独協会ドイツ文化講座

物語における「変身」と「異形化」

—カフカと『鬼滅の刃』・『ジョジョの奇妙な冒険』—

神戸日独協会は、人気マンガ『鬼滅の刃』の解説本である『鬼滅夜話 キャラクター論で読み解く「鬼滅の刃」』の著者であり、ドイツ文学・文化学研究者である植 朗子氏の1日講座を行います。ドイツ語圏の伝承文学研究の観点から、日本の現代のポップカルチャーについて論じていただきます。新しい視点からドイツ文化を楽しんでみましょう。

【講座内容】

人間が「人間以外の存在」へと姿を変える物語は、神話の時代から語られてきました。「変身」にまつわる伝承、さらには古い伝承をもとに再創作された神話的物語について考えてみましょう。この講座では、「変身」にまつわるエピソードの中から、とくに「醜い姿」へと姿を変える運命を背負った人物と、その家族の心の動きをテーマとします。怪物の姿に変身(=異形化)してしまった家族を周囲はどのように受けとめるのでしょうか。

具体的に取り上げる作品は、日本のポップカルチャーでは、『鬼滅の刃』、『ジョジョの奇妙な冒険』(※ただし4部「ダイヤモンドは砕けない」に限定する)です。ドイツ文学作品としては、カフカ『変身』を取りあつかいます(『変身』は2022年にドイツ文学者・川島 隆氏が角川文庫から新訳をご発表されたところですので、そのご解説も参照します。マンガ作品についても解説します)。

日 時： 2022年6月25日(土)14:00～15:30(1時間講演+30分質疑)

会 場： 神戸日独協会会議室

講 師： 植 朗子さん(神戸大学国際文化学研究所推進インスティテュート協力研究員)

【講師紹介】

植 朗子(うえ・あきこ)。博士(学術)。現在、神戸大学国際文化学研究所推進インスティテュート(Promis)協力研究員。和歌山県新宮市出身。ドイツ語圏の民間伝承(昔話、神話、伝説、メルヒェン)を研究分野とし、専門は物語における「怪異」。ドイツと日本の伝承研究の手法を用いて、怪異のモチーフ・話型について研究しており、日本のポップカルチャーの作品解釈をwebサイト「AERA dot.」(朝日新聞出版)で不定期連載中。週刊少年ジャンプで連載され、異例の大ヒット作品となった『鬼滅の刃』の解説を行い、『鬼滅夜話 キャラクター論で読み解く「鬼滅の刃」』(扶桑社、2021年)などの著書がある。

授業形式： 対面授業(オンライン配信は行いません)

定 員： 25名

受講料： 会員1500円(非会員2000円)

お 申 込： 神戸日独協会事務局へ電話(078-230-8150)またはメール(info@jdg-kobe.org)にてお申込みください。

神戸日独協会ドイツ語特別講座

「ドイツ語をより身近に、より深く」

神戸日独協会は、ドイツ語に対する関心・興味・理解をさらに深めていただきたく、通常授業とは異なる観点から4～6月と10月に特別講座を開講してきました。新年度4月からの講座第Ⅰ期開講に合わせて、第3回ドイツ語特別講座「ドイツ語をより身近に、より深く」を開講します。

私たちの言語生活では「自分の気持ち」の表現と「相手の気持ち」の理解が極めて重要です。この「気持ち」は「話法 Modus」と呼ばれ、ja や doch のような話法の副詞、können のような話法の助動詞、接続法等によって表現されます。これらの用例については文法によってある程度の理解はありますが、実際のコミュニケーションでの活用に自信はありますか。今回はこれらの問題について教授経験豊かな講師がコミュニケーションの面から、ドイツ語学の面から分かりやすくご説明をします。それに引き続いて、ドイツ語学習者が先ず困惑する「文法上の性」について語学上とコミュニケーション上の役割について考察します。

この講座は入門・初級者から中級者を対象にした講座です。ドイツ語をこれから学ぼうとする方、現在学習されている方、ブラッシュアップしようとする方に最適の講座です。ZOOM使用(対面授業併用)により行いますので、時間の都合や感染予防などで教室へ通えない方にお勧めの講座です。公開講座ですので、非会員の方も是非ともご参加ください。

開講日時と授業内容:

第1回 5月21日(土)午前10:30～12:00 「話法とは、話法の助動詞の役割」

第2回 6月11日(土)午前10:30～12:00 「話す言葉、スピーチ、アカデミックライティング、文学 — 様々なテキストの構成」

第3回 6月25日(土)午前10:30～12:00 「敬語・丁寧語」

話す時私たちは単に言葉を並べるだけでなく、常に人間関係などの社会的な要因も気持ちも表現しています。そこには「話法」という文法が役に立ちます。外国語の学習者は、まずは内容の伝達ができるようになれば良いと考え、「話法」を後回しにする傾向が見られます。しかし、それは決して良いことではありません。コンテンツは無限にあるのに対して、「話法」は数少ないパターンに基づいているので、「話法」を身につけることによってより効率良く学習できます。例えば、ビジネスレターを書きたい場合、必要な言い回しや敬語などの「話法」さえ知っていれば、文全体の「枠組み」を作ることができます。そしてそこに内容を導入しますが、それがさほど難しいことではありません。逆に、コンテンツをたくさん集めることができたとしても、適切な「話法」についての知識がなければ、手紙が書けません。日常会話についても同様なことが言えます。「話法」さえ知っていれば、内容伝達が大分楽になりますので、早く話せるようになりたい、早く自ら文章を書けるようになりたい方は是非「話法」の学習に取り組んでみてください。

第4回 7月9日(土)午前10:30～12:00 「文法上の性の謎にせまる」

ドイツ語の学習者は「文法の性」を、ドイツ語の名詞で覚えなければならない、ただ面倒として考える人が多いに違いありません。教科書もほとんどが名詞の変化をリストアップするの

みで、「文法の性」をそのコミュニケーション上の役割から説明するものがとても少ないです。このレッスンではコミュニケーション上の役割に焦点を合わせながら、より効率的な学習を目指します。初心者の方はもちろん、「まだここが難しいな」と思う中級者の方にもお勧めです。

講師紹介:

神戸日独協会常務理事 Stefan Trummer-Fukada (元神戸大学教授)

神戸日協会会長 柘田義一 (神戸大学名誉教授)

授業形式: ZOOMによるオンライン授業。協会会議室での対面授業を併用。

定員: 20名

受講料: 1回会員1500円 (非会員2000円) 全4回受講の方は1割引

お申込: 神戸日独協会事務局へ電話(078-230-8150)またはメール(info@jdg-kobe.org)にてお申込み下さい。

申込後、入金を確認し次第、アクセスのリンクをお送りします。

会員による企画 「我が家で迎える祝祭」

第3回 「我が家で迎える手作りこどもの日～春爛漫～」参加感想

Basteln mit der Japanisch-Deutschen Gesellschaft in Kobe am 23.04.2022

Alina Vasquez

Am 23.04.2022 war ich zu Gast bei der Japanisch-Deutschen Gesellschaft in Kobe, deren Büro sich im 19. Stock eines beeindruckenden Gebäudes, mit der wahrscheinlich besten Sicht auf Sannomiya, befindet. Nach einer kurzen Vorstellungsrunde lernte ich, wie man im Stile des *suibokuga* eine Postkarte bemalt. Die Lehrerin war gutherzig und geduldig. Das Malen war nach all den Vorbereitungen, die ich im ersten Monat nach meiner Ankunft treffen musste, sehr meditativ. Danach wurde uns gezeigt wie man schnell und einfach ein mit *koshian* gefülltes Kirschblüten *wagashi* herstellt. Die Süße der Bohnenpaste hat wunderbar zu dem eingelegten salzigen Blatt gepasst. Als letztes haben wir aufgrund des bald stattfindenden *kodomo no hi* eine kleine *koinobori* Tischdekoration in einem Bilderrahmen gebastelt. Darauf habe ich mich besonders gefreut, da die farbenfrohen Fische im Wind, meiner Meinung nach, sehr ästhetisch aussehen! Beim anschließenden Verspeisen des *mochi* mit einem süß-salzigen Tee, der mit Kirschblüten aufgegossen wurde, wurde viel gelacht. Man hat sich ausgetauscht und an alte Zeiten gedacht. Ich habe meine Zeit bei der Japanisch-Deutschen Gesellschaft sehr genossen. Abschließend lud uns Herr Professor Masuda in ein traditionelles Restaurant ein, welches *washoku* servierte. Dort konnte ich zum ersten

Mal ein japanisches Familiengericht probieren, sowie den bekömmlichsten warmen Sake, den ich bisher getrunken habe! Die Mitglieder der Deutsch-Japanischen Gesellschaft waren sehr herzlich und willkommen heißend, deshalb habe ich mich sehr wohl gefühlt und ich hoffe in der Zukunft auch an weiteren Treffen teilnehmen zu können. Vielen Dank, dass ich bei Ihnen zu Gast sein durfte!

Weiterhin besonders interessieren würde mich zum Beispiel auch *ikebana* oder *sadou*.

神戸日独協会での手づくり

アリーナ・ヴァスクベツ(神戸大学留学ハンブルク大学生)

2022年4月23日に神戸日独協会のゲストとなりました。日独協会のオフィスは印象的なビルの19階の恐らく三宮への眺望が最高の所にありました。我々参加者が簡単に紹介された後、水墨画のやり方でハガキにどのように描いたらよいかを教わりました。先生は心優しく辛抱強い方でした。神戸に到着しての最初の月であらゆることの準備をしなければならない後でしたので、水墨画を描くことで心が落ち着くことが出来ました。その次は、どのようにして早く、簡単にコシアンを詰めた和菓子の桜餅を作るかが示されました。豆のペーストの甘味が塩漬けにされた桜の葉に素晴らしくぴったり合っていました。最後に間もなくやって来る子供の日のために鯉のぼりの卓上飾りを額縁に作りました。風にはためく彩り鮮やかな鯉がとても趣のある様子なので、実際の鯉のぼりを見るのがとても楽しみになりました。これに引き続いて塩漬けされた桜の花びらが添えられた甘いお茶と共に桜餅を美味しくいただいた時には、大いに笑いながら楽しむことが出来ました。お互い語り合っただけ交流をして、手仕事を通じて日本の古き時代へと思いをはせることが出来ました。神戸日独協会での時間を大いに楽しむことが出来ました。最期に柘田先生が我々を和食を提供する伝統的なレストランに招待してくれました。そこで私は初めて日本の家庭料理を食べてみる事が、私がこれまで飲んだ中で最も飲みやすかった燗酒を飲んでみる事が出来ました。神戸日独協会の皆様は心温かく歓迎をしてくださりましたので、とても気分爽快になることが出来ました。これからは更に他の集まりに参加が出来ればと期待しています。ゲストとしてお招きいただいたことを感謝しています。さらに生け花や茶道への興味が満たされるといいのですが。

会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで (多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第2月曜まで事務局へ)

イエナ便り —イエナの最近の様子—

会員 竹中ららら（イエナ在住）

大学の新学期が始まりました。今学期は対面授業が増え、大学構内も活気づいています。日本を始め、各国からの留学生が再びイエナ大学で学ぶことができるようになりました。一般の授業においては、マスク着用の義務化がなくなりました。町の文化施設も以前のように営業を再開し、住民や観光客でにぎわっています。

ウクライナ情勢に関して、地元の放送局 Jena TV の情報によると、イエナにも約 1000 人の難民が避難してきました。住居の割り当てやドイツ語コースの提供が既に行われています。先日はチャリティーコンサートやスポーツイベントが開催され、子供から大人までイエナの住民が現在の状況に思いを馳せました。博物館や音楽会といった文化施設の催しには、難民は基本的に無料で参加できます。一般家庭の住宅にもウクライナの国旗がつるされているのをよく目にします。イエナ大学の修士課程 *Auslandgermanistik-Deutsch als Fremd- und Zweitsprache* では、自主的参加のプロジェクトが開催され、学生が難民にドイツ語を教えています。ウクライナからの留学生を中心に大学院生が積極的に参加しています。

若者の間でも昨今の世界情勢についてよく議論されています。先日はゼミナールにポーランド・シュレージエン (Schlesien) の大学の一団が訪れ、様々なテーマについて意見交換をする機会がありました。まず地方の方言についてのプレゼンテーションや現地での言語習得についてのインタビューなどが行われました。シュレージエンは地理的・歴史的にドイツとの関係が深く、小学校の低学年からドイツ語の授業が週に一度あり（ドイツ語が優勢でない地域では英語が代わりに教えられる）、ドイツ語を話す住民が多いということです。またドイツとの関係やドイツに対するイメージについて尋ねると、第二次世界大戦までのドイツによる支配の負のイメージは確かにまだ存在しているが、過去から教訓を学び取り未来に目を向けていくことが大切だという意見が多く聞かれました。例えば現在のウクライナでの戦争においても、歴史的に戦争にいたるプロセスが再び繰り返されており、歴史の教訓が活かされていない。同じ過ちを繰り返さないために、歴史教育を中心に人々の間での議論や相互理解を深めていくことが必要だという結論に至りました。

特にヨーロッパは地域的、民族的、文化的に多様なバックグラウンドを持つ人により構成されている heterogen (異質の) 社会です。ここでは国境や国籍というマクロの視点だけではなく、地域的な差異に目を向けるミクロの視点をもつことが大切です。例えば文化についても、「ドイツ文化」、「オーストリア文化」、「スイス文化」などという統一的な捉え方ではなく、国境や国籍という人工的な概念を超え、地域をまたぐ多面的な捉え方が必要になってきます。ポーランドのシュレージエン地方を始め、アルプスのチロル地方やドイツ南部とオーストリアの国境地方など、国境や国籍という一括りでは捉えきれない歴史、文化、言語が存在します。自分が会話をしている相手がどのようなバックグラウンドを持っているのかを把握し、相手を対等な存在として捉え価値評価をして、中立的な立場で相互理解を進めていくことが必要だと私は考えています。人との交流が増える新学期。意見交換を通して、人々の中の相互理解に一步步近づいていきたい思います。

Einmal hü und einmal hott

Andrea Kehle-Jandl

Die Zeit der Pferdekutschen ist lange vorbei, geblieben ist aber eine Redewendung: „einmal hü und einmal hott“. Mit „hü“ kommandiert der Kutscher das Pferd nach links und bei „hott“ nach rechts.

Einmal hü und einmal hott, das ist offensichtlich die Linie der seit Ende 2021 amtierenden „Ampel“-Regierung. („Ampel“ für rot=Sozialdemokraten SPD, gelb = Freie Demokraten FDP und Grüne)

Anfang dieser Woche verkündete der Gesundheitsminister (SPD), dass es ab 1. Mai keine verpflichtende Quarantäne für Infizierte mehr geben sollte. Empfohlen wurde eine freiwillige Isolation. Am nächsten Tag kam dann die Kehrtwende, weiterhin Quarantäne, er habe einen Fehler gemacht.

Der Impfpflicht erging es gestern im Bundestag genauso. Wochen zuvor plädierte der Bundeskanzler Scholz (SPD) für eine Impfpflicht ab 18. Dann wurde heruntergeschraubt und im Parlament sollte die Impfpflicht ab 60 durchgesetzt werden. Gerade aus Kreisen der Liberalen (FDP) gab es Widerstand gegen eine verpflichtende Impfung. Der Bundestag stimmte ab. Die Impfpflicht erhielt keine Mehrheit.

Auch die Impfpflicht für Beschäftigte im Gesundheitswesen und in der Altenpflege verharret erst einmal in der Warteschleife. Alles bleibt bei Empfehlungen. Also weiter wie bisher. Und dann in den nächsten Corona-Herbst mit einer bisher unbekanntem Variante.

„Hü“ und „hott“ ist aber nicht nur bei Corona die aktuelle Strategie. Auch die Haltung zur Ukraine wechselte von einem Tag zum nächsten. Es wurde in vielen Medien ein Sinneswandel des Bundeskanzlers beschrieben. Es gab aber auch Medien, die darüber berichteten, was vor dem Sinneswandel stattfand, nämlich ein Treffen des Bundeskanzlers mit dem polnischen Ministerpräsidenten in Berlin. Entgegen aller diplomatischen Gepflogenheiten kam der sich zufällig in Berlin aufhaltende litauische Präsident zum Bundeskanzler mit. Dann wurde aus dem „hü“ ein „hott“.

<https://www.youtube.com/watch?v=1Vr9ki4tdFg>

(8.4.2022)

ある時は右へ、ある時は左へ

会員 アンドレアス ケーレ・ヤンドル(フリードリヒスハーフェン在住)

馬車の時代は過ぎ去って久しい。だが “einmal hü und einmal hott” 「(本来は馬に向かって右へ、左への掛け声から) 朝令暮改する」という言い回しはまだ残っている。“hü” でもって御者は馬に「左へ」と命令し、“hott” でもって「右へ」と命令する。

“einmal hü und einmal hott”、これはどうやら2021年末以来「信号」内閣の路線とな

っているようだ。

今週の始めに保健相(SPD)は、5月1日から現在義務付けられている感染者に対する隔離はなくなると発表した。自由意志による隔離が推奨されたのだ。翌日に180度の方向転換が起こったのだ。今後もこれまでと同様に隔離が。同相は過ちを犯したというはなしになった。予防接種義務について昨日連邦議会で同様のことが起こった。数週間前にシオルツ首相(SPD)は18歳からの接種を支持した。その後緩められ、議会では60歳からの接種義務が可決された。まさに自由主義者(FDP)グループから義務的な接種に反対する抵抗が起こったのだ。連邦議会は採決したが、接種義務は多数を得られなかった。

保健機関と老人介護施設の従事者に対する接種もまずは決まらず後回しにされたままでまるで巡回飛行が続いている状態だ。すべてが推奨のままなのだ。従ってこれまでのようにさらに続くのだ。これからまだ知られていないコロナ株の異種による次のコロナの秋にはどうなるのだろうか。

「右へ」「左へ」はコロナだけにおける目下の戦略ではないのだ。ウクライナに対する態度も日に日に変わっている。多くのメディアでは首相の心変わりが述べられてきた。心変わりの前に何が起こったか、つまり首相のベルリンでのポーランド首相との会談について報じたメディアもあった。あらゆる外交上の習慣に反して偶然ベルリンに滞在していたリトアニア大統領が首相の所へやって来た。それから「右から」「左へ」となったのだ。

(会員 柘田 節子訳)

ドイツ語談話室

第210回ドイツ語談話室

日時：2022年4月16日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：日独の教育制度

今回の司会はドロテア・合田さんが担当され、ご自身の事も含めドイツの教育システムについて説明された。原則的には、4年間の小学校があり、そのあと基幹学校、実科学校、ギムナジウムの複数の選択肢(最大で9年間)を経てアビトゥーア(大学入学資格)を取り大学に進むが、基幹学校のあと職業学校に進むデュアルコースも選択できる。これらの制度は、各州によって異なることもある。また、小学校の前には、幼稚園やKITAと呼ばれる保育園がある。小学校4年修了時には、将来自分は何をしたいか、それによってどのコースを選ぶか、を決める必要がある。

以下に参加者の皆さんのテーマに関する発言の一部を紹介する。

—現在の日本の教育制度は6・3・3+大学で単線型だが、ドイツは複数選択型である。日本でも第2次世界大戦前までは複数選択があったが、敗戦後アメリカの制度が導入され、単線型となっている。

—日本では、学校で何を学んだかではなく、どの有名大学を出たかが大切なことであり、また、どのような仕事をしたいかではなく、どの有名企業の社員になるかが大切なことである。

—日本の教育の中で塾の占める役割が大きく、とてもひどい状況になってきている。有名大学に

入るため、小学校や幼稚園からすでに塾があり、有名中学・高校・大学に入るための塾は無限にある。実に信じがたい事だが、実情である。

—子供が、将来何になりたいかのアンケート結果を見ると、一般に考えられる学校の先生・医師・パティシエと言った職業以外に、ユーチューバーが上位にあるご時世だ。一部の談話室参加者には、ユーチューバーとはいったい何なのか理解できない。

—日本の教育では、先生が教えることを生徒が覚えて、皆が同じ正しい回答が出来るようにする。ドイツやヨーロッパでは、生徒が其々何が正しいかを考えるようにする教育がなされている。

—日本の戦前の教育は、軍人を作るために適した教育であった。皆が同じ考えで育つように仕組みられていて、軍の統制に貢献してきた。

—本来、創造的で自主的な人間を育てる教育がなされるべきであるが、残念ながら日本の教育はそれらにほど遠く、改革が必要である。

—ドイツには、子供たちのそれぞれの個性や才能を重視するシュタイナー学校(ドイツではヴァルドルフ学校と呼ばれている)もあり、子供の個性に応じた教育がなされている。

今後のドイツ語談話室の予定

第211回 2022年5月21日(土) 14-16時 テーマ : 食料自給率

第212回 2022年6月18日(土) 14-16時 テーマ : 私の健康法

Protokoll der 210. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 16. April 2022, 14 bis 16 Uhr

Thema: Das Erziehungssystem in Japan und in Deutschland

Dieses Mal hatte Frau Dorothea Goda die Gesprächsleitung und sprach zuerst über das Erziehungssystem in Deutschland. Nach 6 Jahren Grundschule gehen die Kinder zur Hauptschule, zur Realschule oder zum Gymnasium (max. 9 Jahre). Anschließend an die Hauptschule kann eine Berufsschule besucht werden (duales System). Dieses System kann je nach Land unterschiedlich sein. Vor der Grundschule gibt es Kindergarten und Kindertagesstätten (Kita). Beim Abschluss der Grundschule muss die Entscheidung über den weiteren Bildungsweg getroffen werden.

Hier einige der Wortmeldungen zum Thema:

- Das gegenwärtige Bildungssystem in Japan beruht auf einer einzelnen Laufbahn, die 6 Jahre Grundschule, 3 Jahre Mittelschule und 3 Jahre Oberschule umfasst. Auf diese folgt die Universität. Vor dem zweiten Weltkrieg gab es auch in Japan mehrere Bildungswege. Nach dem Krieg wurde das Bildungssystem von den USA übernommen.
- In Japan ist es wichtig, welche Universität man abgeschlossen hat. Das ist für den Berufsweg wichtiger als das eigentliche Studienfach.
- Im japanischen Erziehungssystem spielen die „Juku“ (Abendschulen) eine bedeutende

Rolle. Um in eine der namhaften Universitäten aufgenommen zu werden, besuchen Kinder schon von sehr jungem Alter an neben der eigentlichen Schule auch derart „Juku“. Schon Kindergartenkinder besuchen oft eine „Juku“ um den Eintritt in eine namhafte Grundschule zu schaffen, was wiederum höhere Chancen für den weiteren Bildungsweg verspricht. Das klingt unglaublich, ist leider aber eine Tatsache in Japan.

-Nach einer Umfrage unter Kindern nach ihren Berufswünschen lag „Youtuber“ an erster Stelle, nicht mehr traditionelle Berufe wie Lehrer, Arzt oder Konditor. Einige Teilnehmer der Gesprächsrunde wussten noch nicht, was unter „Youtuber“ zu verstehen ist.

-Das japanische Erziehungssystem vermittelt „richtige“ Lösungen, die SchülerInnen werden weniger dazu angeregt, selbst nachzudenken, als es in manchen europäischen Ländern der Fall ist.

-In der Vorkriegszeit lag das Ideal des Erziehungssystems darin, zum Soldaten heranzubilden. Es wurden allen die gleichen Ansichten aneignen und so militärische Kontrolle erreicht.

-Die Erziehung muß kreative und selbstständige Menschen heranbilden. Auch heute bedarf es hier noch einiges an Verbesserung.

-In Deutschland gibt es auch alternative Schulen, wo Individualität und Talente gefördert werden, wie zum Beispiel Steinerschulen (in Deutschland Waldorfschule genannt).

Nächste Treffen:

Samstag, 21. Mai 2022, 14 bis 16 Uhr, Thema: Die Lebensmittel-Selbstversorgungsrate

Samstag, 18. Juni 2022, 14 bis 16 Uhr, Thema: Wie man gesund bleibt

Stammtisch mit Zoom

こうしてボクは日本でドイツを教えています: Mátyás Köszegi

今回登場していただくのはクーセギ先生です。あいにく土曜日の午前中に仕事があるため、事前に Video を収録していただきました。

クーセギ先生はハンガリーのご出身、ハンガリーは名前の順番が名字が先で、日本と同じモンゴロイド系です。つまりモンゴルから西に行ったのがハンガリー人で、東に行ったのが日本人と言われると、親近感を覚えます。フォークソングやフォークダンスが盛んで、クーセギ先生はハンガリーでプロとして踊っていました(2019年のクリスマス祝賀会ではダンスを披露してくださいました)。

ハンガリーは人口1000万人、1000年~1920年までハンガリー王国、クーセギ先生の生まれたのは南ハンガリーのペーチ Pécs という町。調べてみると、クーセギ先生のご先祖は1760年代にドイツからハンガリーに仕事に来て、住み着いたのだそうです。が、1945年、ソ連が入って来ると、ドイツ姓(クラインハイツ)のままではやばいと、ハンガリーの姓に変更しました。小学校(8年間)

に入ると、その地区の学校の授業はドイツ語。初めは好きでなかったドイツ語がだんだん面白くなってきて、その後はドイツ語が専門(週6回で6時間ドイツ語)の高校(4年間)を選び、ドイツ語の教師になりたいと思うようになりました。18歳の時にドイツ語の試験の一番上のランクに合格。大学でもドイツ語を専攻し、5年間勉強して、マスターを修得。

言語学が好きで、2007年に日本語を習い始めた時に知り合ったのが、後に結婚するマイさんで、マイさんはハンガリーの日本語学校で教えていました。2009年にマイさんのビザが切れると、マイさんの後を追って日本へ。何も考えず観光ビザで来たので、日本では仕事できません。

2010年に結婚して、配偶者ビザ(現在は永住ビザ取得)であちこちの大学や語学学校で非常勤講師として働くようになり、それは今も続いています。もう少しよく考えてから日本に来たら、貿易会社で働くとかもあったかもしれませんが、ドイツ語を教えたいという気持ちが強かったそうです。でも日本で大学の常勤になろうとすると、博士論文を書いていないといけないとか、なかなかハードルが高いみたいです。神戸日独協会でも、もう10年以上教えておられます。

そのクーセギ先生から見て、ドイツ語は日本人に合っているようだ。ドイツ語は文法が難しいと言われるけれど、その文法を学び、発音規則を覚えると、後はだんだんラクになっていきます。つまりピラミッド型。それに対して英語や日本語は、語尾変化もないし、格変化もないし、日本語は前置詞すらないしで、初めは簡単みたいだけれど、その後に細かい規則が次から次へとあって、言わば逆ピラミッド。だからきちんとドイツ語を勉強した人には、英語よりドイツ語のほうが合っているみたいだと。

クーセギ先生は日本語がお上手ですが、敬語や漢字はやっぱり大変。漢字はパソコンを使えば読み書きできるし、翻訳ソフトもあるけれど、手書きはとて難しいとのこと。

尚、クーセギ先生の Video はホームページで公開の予定です。 (理事 押尾 愛子)

5月の Stammtisch mit Zoom のお知らせ

日 時: 2022年5月28日(土)午前10時~11時

話題提供: 神戸日独協会会員 玉田 龍太郎 さん

紹介: 滝川第二中学校・高等学校の国語科教諭をされている玉田龍太郎さんは、ドイツの哲学者・フヒテの研究で博士学位を取得なさっておられ、また、百川怜央のペンネームで自己啓発書の作家としても活動なさっています。哲学、自己啓発、そして現在ブームとなっている哲学対話の魅力などについていろいろお話しいたします。玉田様の詳しい紹介は次の通りです。

<https://researchmap.jp/tamaryuu>

神戸日独協会 Stammtisch mit ZOOM

<https://us02web.zoom.us/j/85366355191?pwd=N05kSTl1blVhYkNqc2kvQmd5VjlpQT09>

ミーティングID: 853 6635 5191 パスコード: 393924

ドイツ新事情 —Deutsche Welle の記事から—

シュルツ首相の日本訪問

理事 押尾愛子

16年の長きに亘ってドイツ連邦首相 Bundeskanzlerin を務めた Angela Merkel が退任して、次に Bundeskanzler となった Olaf Scholz が4月28～29日に日本を訪問しました。Kanzler 就任以来、ヨーロッパ以外の外国訪問は、USA、Israelに次いで日本が三番目です。このことは、Merkel がいつもアジアの中では中国を優先していたことと比較して、Scholz がいかに日本を重視しているかを示しています。

Kanzler Scholz の日本訪問の目的は何かというと、ひとつは6月末に Bayern の Elmau 城で開催される G7サミットを控えての儀礼的な訪問です。サミットの議長国は、その前に参加各国を訪問するのが伝統的に習わしなのです。因みに来年、次の議長国は日本です。

もうひとつの目的は、ロシアのウクライナ侵攻が続く中で、今まで以上に協同して、結束を強めようというものです。とりわけドイツと日本は、Wertepartner(価値を共有するパートナー)として、ロシアに対する制裁、ロシアの天然ガスへの依存、半導体やその他原材料のサプライチェーンの確保、並びに地政学的な問題など、共通する問題がいろいろあります。そういった共通する諸問題について、一緒に取り組もうということなのです。

ロシアのウクライナへの侵略戦争は、今や民主主義と独裁主義の対立の観を呈しています。中国とUSAの経済紛争も続く中で、ドイツ・日本両国とも、USAを安全保障上のパートナーとしながらも、大きな経済市場を有する中国の市場開拓の道も探りたいという点でも共通しています。

そこでドイツは日本に、定期的に Regierungskonsultation(政府間協議)を持つことを提案しました。それと同時に、両国の経済関係の代表による会合も開催したいということなのです。昨年、両国ともに、外務大臣、防衛大臣が出席してUSAとの“2-plus-2-Dialog”(安全保障協議委員会)を初めて開催しましたが、更にそれを外務・防衛だけでなく、全般にわたって展開させようというものです。ドイツはすでにイスラエル、インド、中国などこの Regierungskonsultation を行っていますが、日本にとっては初めてで、国会との日程の調整などが必要となります。

このことについて、ドイツのアジア研究の専門家も「アジアにおいて日本はドイツの Wertepartner として最も重要だ」と述べていますし、日本のジャーナリストも「ロシアや中国と付き合う上で、ドイツとの協力はとても重要だ」と言います。

Kanzler Scholz はわずか20時間という短い滞在でしたが、Merkel が“有能で影響力の大きい”政治家として高く評価されている日本で、Scholz という人物を実際に知るいい機会になったのではないのでしょうか。

ドイツはインド太平洋も重視しており、2021年にはフリゲート艦“Bayern”が半年間この地域を航行し、11月には日本にも寄港しました。今年の9月にはドイツの Eurofighter がオーストラリアで行われる多国籍軍時訓練に参加する予定です。

Deutsche Welle: Des Kanzlers Reise – deutsche Signale an Japan (27.04.2022) : Scholz in Japan: „Wir sind Wertepartner“ (28.04.2022)より。

(このコーナーは、神戸日独協会ドイツ語講座講読クラスLN(火曜日)の受講者が授業で読んだ記事の中から興味深い up date なニュースを随時会報にて紹介しています)

ドイツ語講座・ドイツ文化教室2022年度第 I 期開講中

4月より「ドイツ語講座・ドイツ文化教室 2022年度第 I 期」が開講しています。社会活動が徐々に復活しだした新年度の開始とともに、ドイツ語へのチャレンジ、再挑戦、ブラッシュ・アップをはじめませんか。講座内容については、協会事務室にお尋ねください。途中からの参加は可能ですので、ご参加をお待ちしています。

事務室からのお知らせ

お悔やみ

会員の方が逝去されました。

沼田 昭夫 さん 2022年3月

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りします。

協会ではご遺族からご連絡をいただいて、ご通知しています。

お詫び

本号で総会報告をするために、発行を一週間遅らせました。ご容赦ください。

事務室開室の変更

4月より事務室の開室時間を変更しました：平日2時～5時

ご不便をおかけしますが、上記時間外は留守番電話・ファックス及びメールにてご連絡ください。

なお、受講料などの納金については、銀行振込と郵便振替をご利用ください。

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の印刷と発送は6月9日(木)を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい(TEL 078-230-8150)。

印刷：兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号

国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送：神戸日独協会にて、12:30～

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
5月21日(土) 10:30~12:00	ドイツ語特別講座 「話法とは、話法の助動詞の役割」	神戸日独協会会議室 Zoom併用	5月19日(木)
5月21日(土) 14:00~16:00	ドイツ語談話室	神戸日独協会会議室	当日参加可
5月28(土) 10:00~11:00	Stammtisch mit Zoom	神戸日独協会会議室 Zoom併用	当日参加可
5月29日(日) 13:00~15:00	会員親睦遠足	奈良国立博物館	5月27日(金)
6月 5日(日) 14:00~16:00	会員懇談会	神戸日独協会会議室	当日参加可
6月11日(土) 10:30~12:00	ドイツ語特別講座 「話す言葉、スピーチ、アカデミックライティング、文学 — 様々なテキストの構成」	神戸日独協会会議室	6月 9日(木)
6月25日(土) 14:00~15:30	ドイツ文化講座 物語における「変身」と「異形化」 —カフカと『鬼滅の刃』・『ジョジョの奇妙な冒険』—	神戸日独協会会議室	6月23日(木)